

<目的> 成長・発達の過程にある少女用のブラジャーについて、着用しはじめる時期や動機、体格との関連などの現状を把握することを目的として、調査を行なった。

<方法> 成長期にある女子中学生 828名を対象に、ブラジャーに対する意識および着用の実態についてアンケート調査を実施した。同時に、各人の健康診断時の身体計測値とその計算値（身長・体重・胸囲・ローレル示数・比胸囲）をアンケート内容と対応させ検討した。

<結果> ①ブラジャーを着用しはじめる年齢は、13歳が42.7%と最も多かった。着用率は、中学1年が40.3%、中学2年が52.4%、中学3年が90.0%で、中学2年と3年の間で着用率が急増していた。②着用の動機は「母親にすすめられて」が最も多く80.5%であった。母親は購入者としても第1位であり、特に中学1、2年では母親の関わる割合が非常に高い。③着用しているブラジャーの形に学年による差がみられた。④ブラジャーに対する不満は約30%あり、その内容は、サイズや動作適合性などの機能に関することが多かった。⑤体格に関しては、ブラジャー着用者群と未着用者群の間にすべての項目に1%の危険率で有意差が認められ、着用者群が全項目とも優れていた。これを、学年ごとに検討してみると、第1学年でその差が顕著であり、第3学年では、その差はほとんど認められなかった。